



球磨川の氾濫で、市街地が広範囲にわたり浸水した熊本県人吉市。水が引き、住民らが家屋の片付けや泥のかき出し作業に追われた。道路脇に積み上がる 災害ごみが被害の大きさを物語る（7月9日）。

令和2年7月豪雨

熊本県人吉市に災害派遣医療チーム「DMAT」を派遣

7月3日から9日にかけて日本列島に梅雨前線が停滞し、九州地方を中心に広い範囲で大雨特別警報が発令されるなど、記録的な大雨となりました。市街を流れる球磨川が氾濫し、建物の流失や浸水などの被害が集中した熊本県人吉市では、今も被災者が避難生活を強いられています。総合医療センターでは、厚生労働省DMAT事務局から要請を受け、現地へDMATを派遣しました。今回は、2日間にわたる現地での医療活動についてお伝えします。

特集 被災地へ

問 総合医療センター TEL (33) 3151 (代表)



全国のDMATと連携し、医療活動を展開

1/球磨病院での清掃作業。院内のみならず敷地周辺にも泥があふれ、モップでのかき出し作業に追われた。 2/球磨病院内部。1階フロアは約2メートルの高さまで浸水した。 3/当院の緊急車両で現地へ。途中、大雨により運転が困難となり、広島県内のホテルに宿泊。翌日は九州地方に大雨特別警報が発令されたため、福岡県内のサービスエリアで待機するなどほぼ一日がかりで現地へ到着した。 4/災害時は必要な情報が一刻一刻と変化する。全国から集まったDMATとともに、被害状況や入院患者の情報を共有した。 5/看護師に業務を指示する立川医師。 6/5階・6階に入院する透析を必要とする患者の転院のため、階段から車を担いで降ろす。床が泥で滑りやすくなっており、一段一段慎重に降ろしていった。 7/人工呼吸器を装着した患者を10人がかりで降ろし、救急車で転院搬送した。 8/水道が使えないため、各地の水道局から飲料水の支援も。

7	6
	8

4	1	
5	3	2

DMAT (Disaster Medical Assistance Team) とは、医師、看護師、薬剤師や事務員などの業務調整員などが、災害時や多数の傷病者が発生した現地に直ちに駆け付けて医療活動を行う、専門的な訓練を受けた医療チームです。当院では22人のDMAT隊員が勤務し、災害発生時にいつでも出動できるように、日頃から訓練や準備を整えています。今回の豪雨災害には、医師1人、看護師2人、業務調整員3人の計6人の隊員を派遣しました。

7月6日午後3時22分、厚生労働省DMAT事務局から熊本県へのDMAT派遣要請を受けました。すぐに行動できる隊員を集め、午後6時頃、熊本県に向けて出発。途中、大雨特別警報が発令されるなどの影響により、7月7日午後5時頃に、ようやく人吉・球磨医療圏保健医療調整本部である人吉医療センターに到着しました。同医療センターでは、全国から駆け付けたDMATとともに、被害状況などの情報収集をしました。滋賀県内からは他に大津市民病院と公立甲賀病院のDMATが派遣されていました。ここで、私たちは翌日から球磨川の氾濫により浸水被害のあった球磨病院に支援に入るよう指示を受けました。球磨病院のすぐそばを流れる球磨川は、最上川、富士川と並び日本三大急流の一つで、「日本二十五勝」にも選定されている非常に美しい川で有名です。しかし、今回の豪雨で川の水は泥で濁り、中州は抉られたように崩れ落ち、「日本二十五勝」の面影はあり

DMATは、以前は災害の初期段階だけをカバーすればよいといわれていました。現在では急性期・亜急性期、慢性期の地域の医療・介護の現場との橋渡しが求められ、介護、病院支援、避難所の運営など非常に多岐にわたる活動を担っています。

今回はコロナ禍での災害ということ、被災地へ出入りする人が増える中、感染拡大をどう防いでいくのか、また、水害の支援でどのような資機材が必要か課題も見えました。

今回の熊本県での活動を通じて、水害の恐ろしさを目の当たりにしました。多くの尊い命が失われたことに、心よりお悔やみ申し上げます。また、今もなお避難所で不自由な生活をされている皆さんをはじめ、被災された多くの皆さんが一日も早く復興し、元の生活に戻るよう心から願っています。



今回のDMAT派遣でリーダーを務めた
総合医療センター 総合内科
医師 立川 弘孝

ませんでした。球磨川沿いの多くの家屋では、浸水被害により大量の土砂が流入し、使えなくなった家具や家電製品を外に出し、泥の掃除をされていました。

私たちの任務は、主に球磨病院に入院中の患者の健康チェックや他病院への転院のための搬送、浸水被害のあった1階部分の清掃など、1日も早く通常診療ができるように病院を支援することです。

浸水により病棟のエアコンが使えなかったため、熱中症や脱水症を訴える入院患者がいなかった医師と看護師で診察をしました。中でも、重症な患者は医療設備が整った安全な病院へ転院いただく必要がありました。エレベーターが浸水で故障していたため、階段から10人がかりで降ろすことになりました。また、病棟に水をくみ上げるポンプが故障したことにより、透析を行うことができない患者に転院いただくため、5階・6階から車いすを担いで階段で1階に降ろしました。

浸水した1階部分は天井部分まで浸水した形跡があり、ほぼ水没していたことが見てわかりました。フロアは大量の泥に覆われ、水で流しながらモップで泥をかき出しましたが、どれだけかき出しても泥が引くことはなく、水害時清掃作業の大変さを痛感しました。

2日間の病院支援を終え、10日夕方に総合医療センターへ無事帰ってきました。今回派遣された6人それぞれの視点で活動を検証し、次の活動につなげていきます。